31-1162

医薬品添付文書の比較－－１９５０年代と２０００年代　（その４）　英仏アラビア語併記の例

○五位野 政彦[1]（[1]東京海道病院薬）

【　はじめに　】

1950 年代と 2000 年代の添付文書を比較，報告する．今回は日本国外（英国）で製造，日本国内に輸入された医薬品の添付文書を報告する．

【　対象添付文書　】

'WELLCOM' PROTAMINE ZINC INSULIN　(1952 年製造)

【　結果　】

本添付文書には次の特徴がある．

１）英語，フランス語，アラビア語の併記（　支店に cairo の記載　）

２）医療技術者向でなく，本剤の交付を受けた使用者（患者，無資格の看護者・介護者）が対象

例：注射の方法・部位，保管方法，低血糖時および糖尿性昏睡時の対処方法

３）言語による規格単位記載方法の違い．（　英：cc　仏：cm3　）

４）アラビア語特有の右から左への書字法による，タイトル等の位置のずれ．

５）英仏文での太字体の記載は，アラビア語では太字および下線．

【　考察　】

今回報告した添付文書は，2004 年現在発売されているインスリン製剤添付の患者指導せん（製薬企業製作）の内容に似ている．これは現行の薬剤師法 25 条の２（患者に対する情報提供の義務）により提供すべき内容とほぼ同じものが，50 年前の欧州およびその文化圏で存在していたということである．医薬分業の歴史を持つ欧州での，医薬品情報提供の層の厚みを思わせる添付文書である．